

「柏崎の水」

柏崎温泉

「柏崎温泉噴出す 市勢新発展の突破口」柏崎日報にこの記事が掲載されたのは昭和25年の元旦号。柏崎温泉噴出のニュースが「柏崎市の昭和24年 5大ニュース」の第1位に選ばれたのである。

昭和24年11月23日午前9時、65度の湯が噴出を始めた。すると、市民に温泉噴出を知らせる5発の花火が打ち上げられ、柏崎日報は正午に号外を発行、時の三井田虎一郎市長はすぐさま「市民各位へ、温泉噴出について」という談話を発表した。また、採掘現場は連日見物人で賑わったという。当時の柏崎にとって、このニュースがどれほどの関心を集め、その喜びがいかに大きかったかを物語るエピソードである。



昭和25年の柏崎温泉街
(「柏崎市史資料集 近現代編3上」所収)



柏崎温泉は石油井の掘削中に発見された。昭和15年、帝国石油により掘削されていた「帝石一三号井」から温泉が噴出。これを柏崎市が買収し活用しようとしたが、事故のため噴出が止まってしまう頓挫していた。終戦後、柏崎復興の象徴としてこの温泉を再掘することになり、昭和24年9月1日「柏崎温泉株式会社」が設立された。そして、現場技術陣の不眠不休の掘削作業の末、ついに温泉が噴出したのである。また、この成功の裏には帝国石油の絶大な援助があった。

その後多くの旅館、料亭に引き湯され、新花町一帯が湯の町として大きく変貌することとなった。なお、温泉採掘は市の復興を願っての事業であったため、配湯を受けるには「市の発展に協力すること」が基本条件とされた。ちなみにお湯については、「浴槽の湯はド黄色であり、手ぬぐいは黄色に - 」との記述も見える。

写真 上：柏崎温泉井掘削工事の様子
手前の男性は柏崎温泉株式会社社長の吉浦栄一氏
下：柏崎温泉まつりの様子
(当館所蔵 真貝新一氏寄贈写真より)

参考にした本
「砂丘の大地に生きる」柏崎市中央地区コミュニティ編(224 K チュ)
「柏崎歳時記」山田良平著(910 ヤマ)
「柏崎編年史」新沢佳大編著(224 シン)